

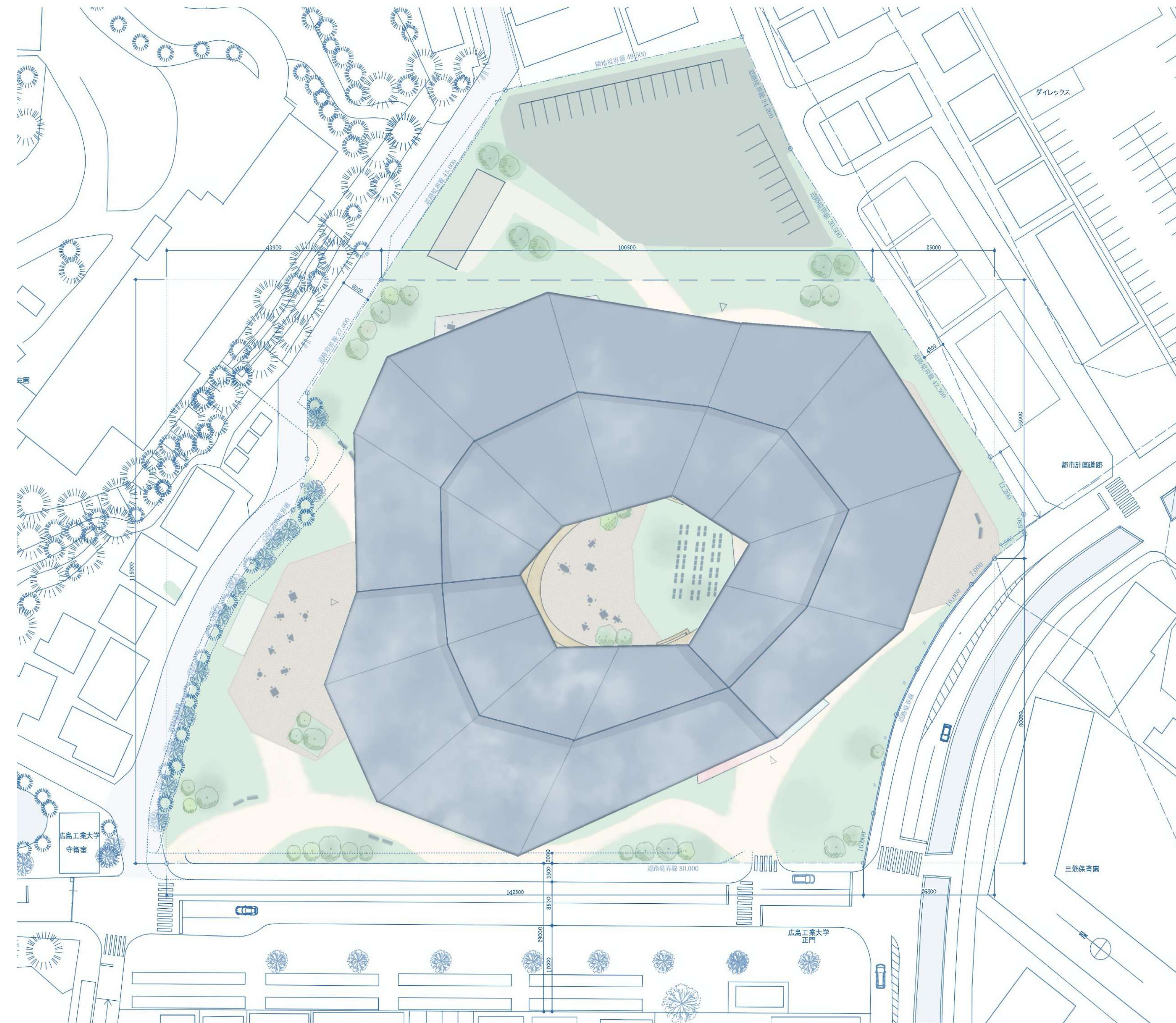
境界をつなぐ

地域と大学の境界を越えた、モノづくりの風景をひらく。

本計画は、大学と地域社会をゆるやかにつなぐ「ひらかれた創作の場」を創出することを目的とする。

異なるプログラムをつなぐために中間領域を内外に広げて、
内と外、大学と地域、個と集団をつなぐ架け橋となる空間を目指す。





大学と地域が共存し、創作のサイクルを行う場を作る。

モノづくりを通じて人が出会い、学び合い、モノを作る。
その流れが日常に入り込むことで、まち全体がまるで
アトリエのように創造的な空間になることを目指す。

地域全体がにぎわいと創造性にあふれた場所となるように。

モノづくりとは、単に一連の手順ではなく人間らしさの
詰まった営みと考える。

1. 課題や願いに気づく

「こうしたい」「こうだったらいいのに」という思いから
始まる。

2. アイデアを考える

どうすれば形にできるかを想像・発想する。

3. 手を動かして試す

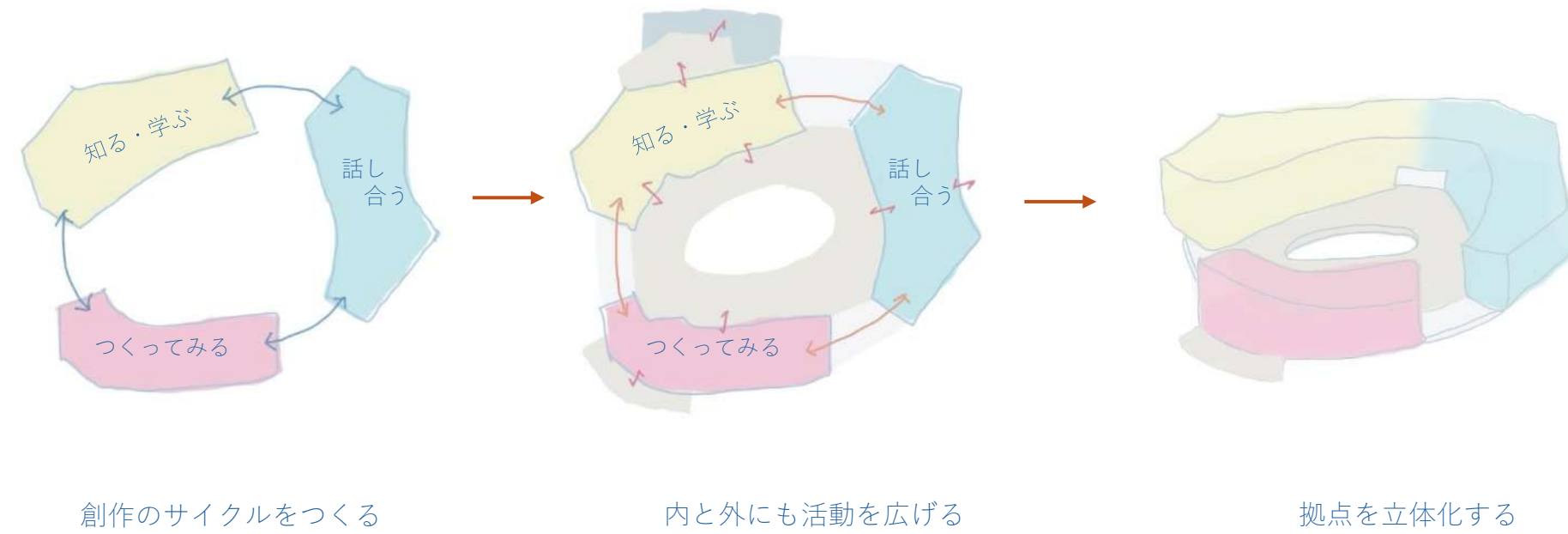
実際に描いたり作ったりして、アイデアを形にしてみる。

4. 失敗して工夫する

うまくいかなくても、試行錯誤を重ねて改善していく。



04 ダイアグラム



05 中間領域

モノづくりの過程は、直線的ではなく、行きつ戻りする循環的なものだと考える。

学びや会議、実践の場が点在する中で、その間をつなぐ「中間の行為」が重要になる。

本計画では、各拠点をつなぐ動線上に「スタディ」「ブラッシュアップ」「レビュー」といった中間的な行為の場を配置することで、モノづくりがぐるぐると循環し続ける空間を構想している。

創作の行為が建物の内だけで完結しないよう、軒先空間も中間領域と捉えた。

そしてデッキや土間、ランドスケープといった外部空間にも創作活動がにじみ出し、人が自然と集まり、本を読んだりモノづくりをしったりする場となることを目指している。

06 屋根とヴォリュームの検討

屋根と建物に創作のサイクルを落とし込みながら、人の流れを誘導するヴォリュームを検討する。

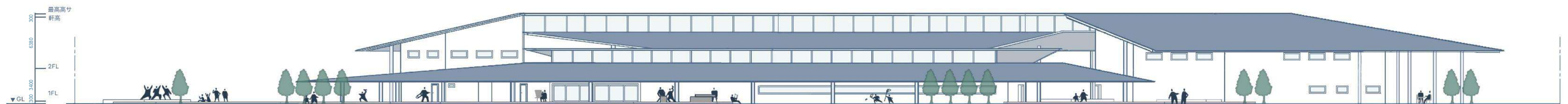


↑ 軒先空間で行われる知の交流

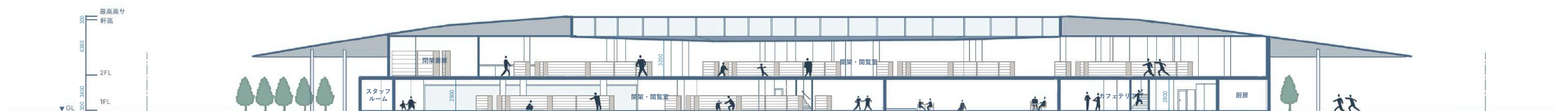


↑ 中間領域で行われるブラッシュアップ

07 南西立面図 S=1/300

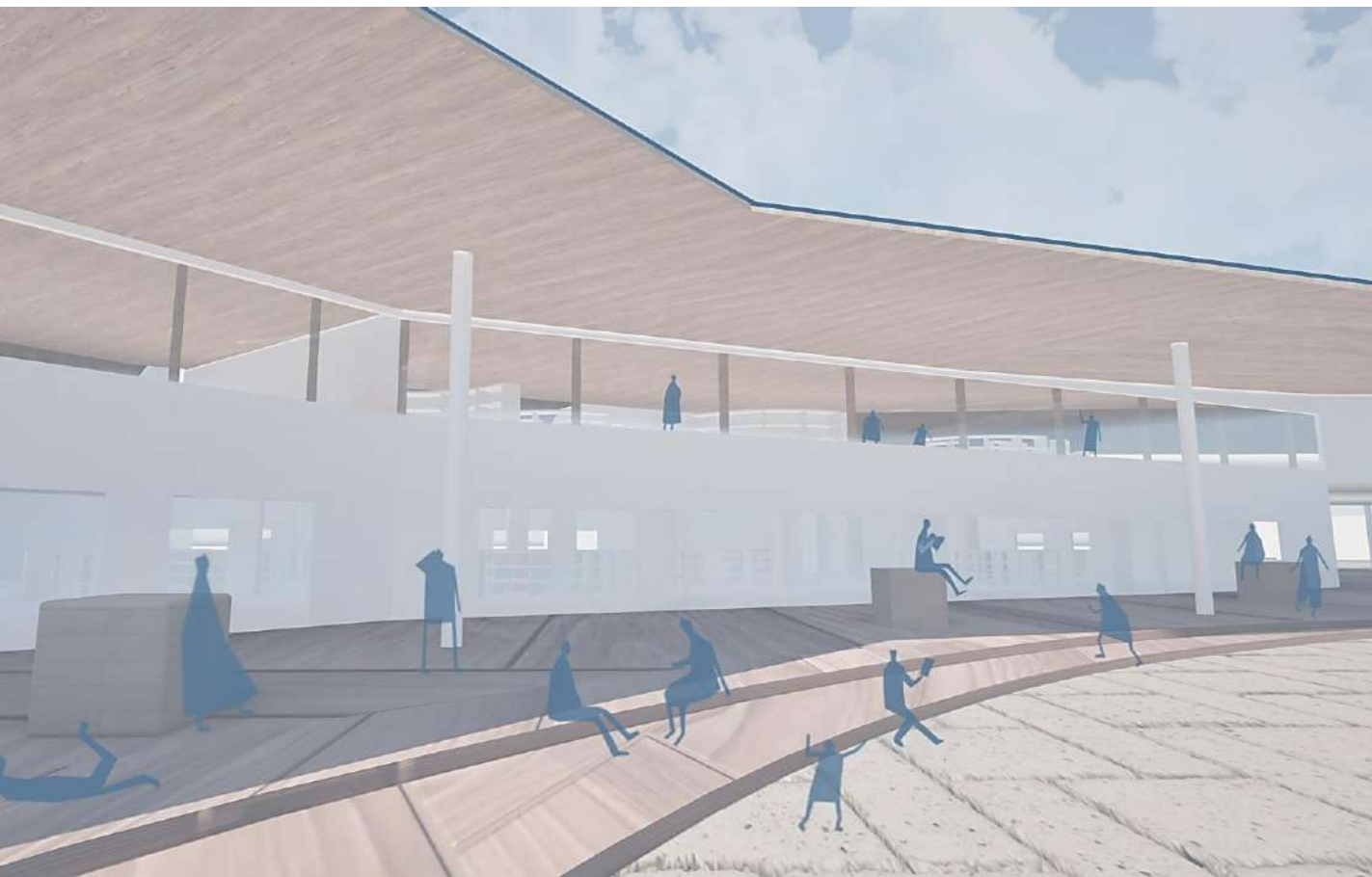


08 X-X' 断面図 S=1/300



09 建物の内と外

建物をつなぐ内と外には、さまざまな活動が生まれる。
例えば図書館では、建物の内部だけでなく外部にも活動が広がり、開かれたパブリックな図書空間と、閉じられたプライベートな図書空間が共存していると考えられる。



図書館前 縁側



図書館 閲覧スペース



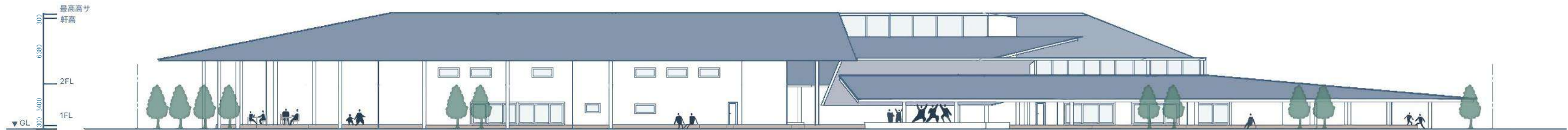
図書館外側 デッキ・土間空間

中央広場と図書館の間に位置するにぎわいと静けさが交わる中間領域。
人の話し声、木材のぬくもりといった要素が物語をより鮮明に立ち上げるきっかけに。

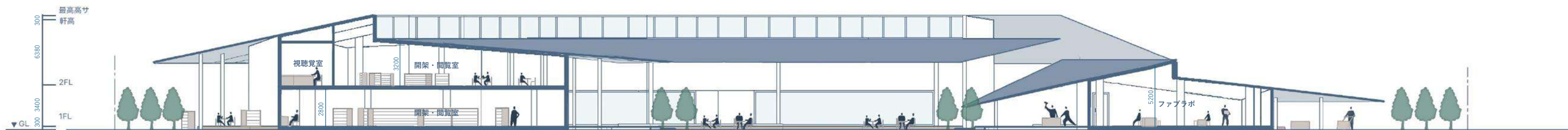
本棚を放射状に配置することで、人が自然に集まる場に緩急を生み出す。
その中で、モノづくりに必要な知識を探し出す楽しさを体験できる空間となっている。

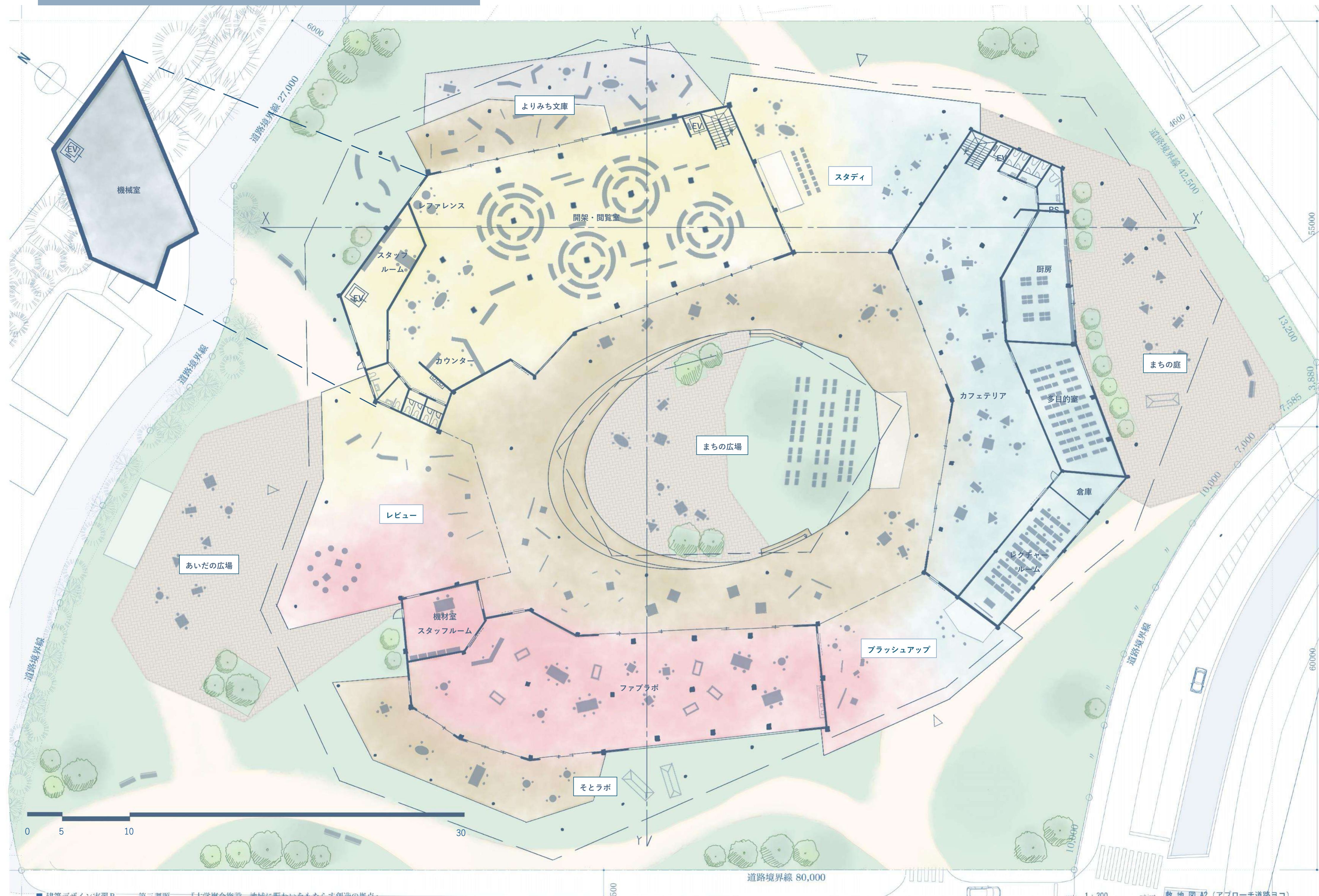
軒先まで広がる外の図書空間は、地域との交流の場として機能する。
持ち込み本棚やモノづくり関連の本を探すことで人と知がゆるやかにつながる場となる。

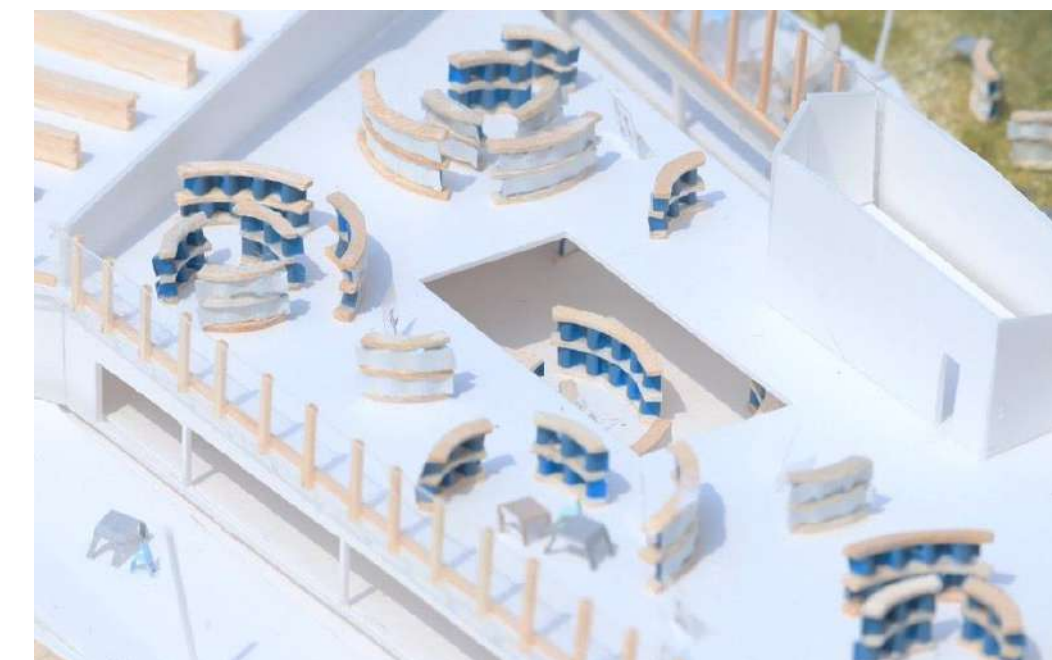
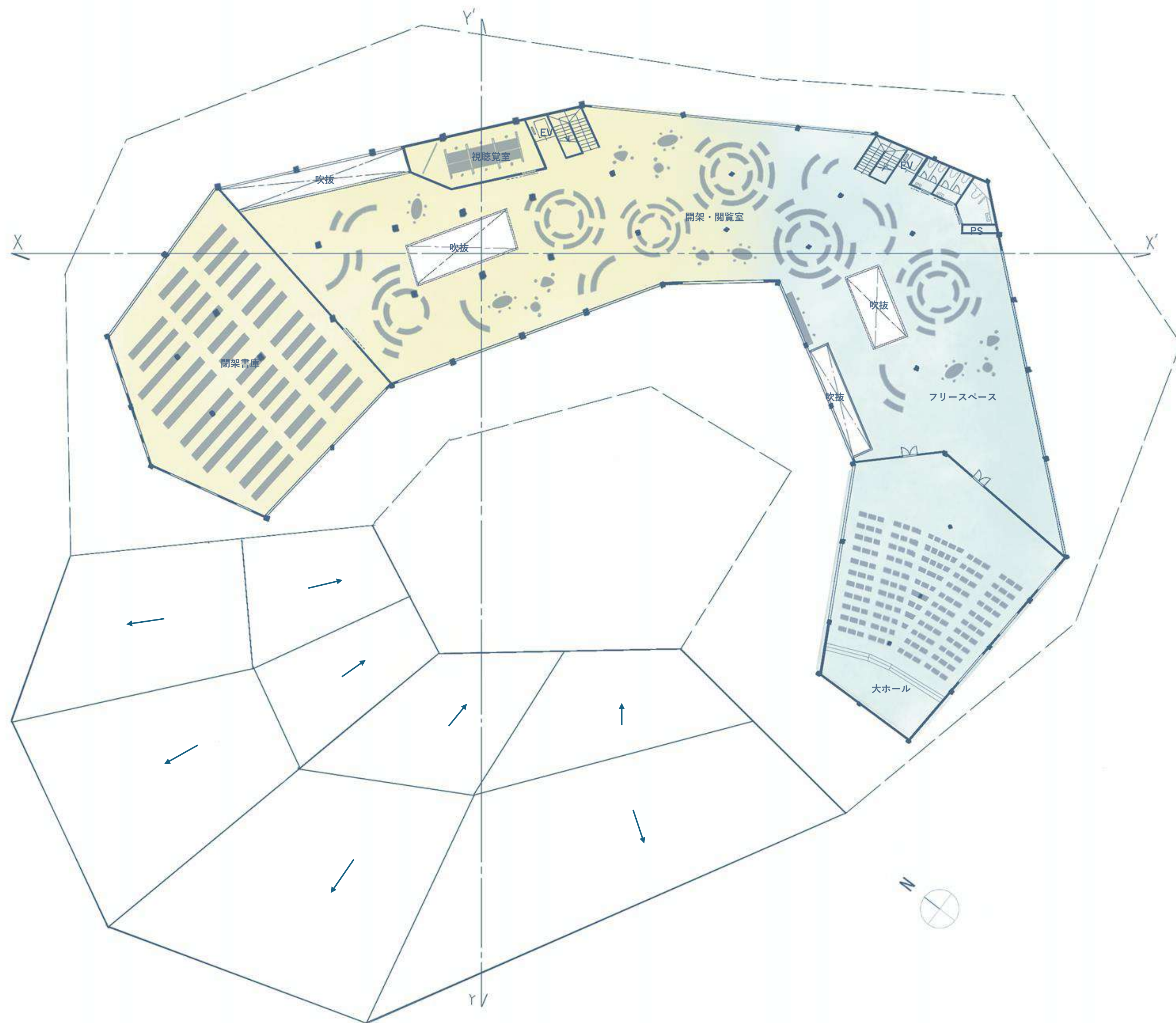
10 北西立面図 S=1/300



11 Y-Y' 断面図 S=1/300







14 設計概要

敷地場所：広島市佐伯区三宅3丁目

用途地域：第一種中高層住居地域

防火地域：法22条区域

敷地面積：9,073.00㎡

建ぺい率：60%以下(角地緩和70%)

容積率：200%以下

道路：東側4.6m(都市計画道路21m)

西側29m(広工大アプローチ道路)

南側12m北側6m

用途：図書館、交流ラウンジ、ファブラボ

構造：鉄筋コンクリートと木の混構造

階数：地上2階建て

建築面積：7,247㎡

延床面積：11,329㎡

建蔽率：37.75%

容積率：59.01%